

復活節第3主日

復活節第3主日を迎えました。今日の福音は聖書の中でも特に美しい場面の一つ、エマオへ向かう二人の弟子の物語で、次のように始まります。

「この日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオンほど離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。」

ルカ福音書では、すべてがエルサレムへ向かっています。エルサレムは、十字架と復活という神の救いの出来事が成し遂げられた場所です。ところが、この二人の弟子はそのエルサレムから離れて歩いています。つまり、彼らは逆の方向に進んでいるのです。

ここに第一のポイントがあります。私たちは、この二人の中に自分自身を見るように招かれています。私たちもまた、希望から、信仰から、神が招いておられる場所から、離れてしまうことがあるのではないのでしょうか。

しかし、ここに福音の良い知らせがあります。彼らが間違った方向に歩いているその時に、イエス様に来て、共に歩いてくださるのです。彼らはそれに気づいていませんが、主は共におられます。これは「恵みの優先性」です。

神は、私たちが完全になるのを待ってから近づいて来られるのではありません。「まず正しくなりなさい。そうすれば共に歩こう」とは言われません。むしろ、迷い、失望し、混乱しているそのままの私たちのもとに来てくださいます。

そしてイエス様は尋ねられます。

「歩きながら、何を話し合っているのですか。」

ここがとても大切です。イエス様はすぐに教えたり、正したりはされません。まず耳を傾けてくださるのです。

これは私たちにとっても大きな学びです。教会の働きにおいても、家庭においても、人との関わりにおいても、最初に必要なのは、上から教えることではなく、共に歩み、その人の話を聴くことです。

2人の弟子たちは語り始めます。ナザレのイエス様のこと、力ある業のこと、十字架の死のこと、そして復活のうわさまでも。

彼らは出来事をよく知っています。しかし、それでも悲しみ、迷い、エルサレムから離れています。

なぜでしょうか。それは、事実は知っていても、その意味を理解していないからです。出来事は見えていても、その中にある神の計画が見えていないのです。

そこで転機が訪れます。イエス様は言われます。

「なんと物分かりが悪く、心が鈍いことか。キリストは苦しみを受けて、その栄光に入るはずではなかったのか。」

そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体を通してご自分について説明されました。

ここで弟子たちは「神の道」を学びます。苦しみは無意味ではないこと、愛は十字架にまで至ること、そしてその愛を通して栄光に至るという神の道です。

彼らの心は燃え始めます。しかし、まだ完全にはイエス様に気づいていません。

やがてエマオに着き、彼らは言います。

「一緒にお泊まりください。」

そして食卓で、イエス様はパンを取り、祝福し、裂いて、彼らに与えられます。そのとき、彼らの目が開かれ、イエス様だと分かったのです。

これが聖体です。パンを裂く中で、イエス様の正体が明らかになります。それは「与え尽くす神の愛」です。

「これはあなたがたのために与えられる私の体である。」まず御言葉が開かれ、そしてパンが裂かれる。これがミサです。

そしてその瞬間、イエス様は彼らの前から見えなくなります。なぜでしょうか。それは、今や主が別の形で、教会の中で、聖体の中で、そして弟子たちの使命の中で現存されるからです。

すると彼らはすぐに立ち上がり、エルサレムへ引き返します。同じ道ですが、今度は逆の方向です。

もう逃げるのではなく、信仰と喜びと使命をもって戻っていくのです。これがミサで私たちに起こることです。

私たちは疲れや迷いを抱えて来ます。主は共に歩み、御言葉で語り、聖体でご自身を与えてくださいます。そして最後に、私たちは派遣されます。

「行きなさい。ミサは終わりました、生きましょう、主の平和のうちに。」

皆さん、私たちは皆、エマオへの道を歩く者です。しかし復活の主は、いつも私たちと共に歩いておられます。そして今度は、私たちを通して、他の人と共に歩もうとしておられます。

御言葉によって心を照らされ、パンを裂く中で主を認め、日々の生活の中で主を証^{あか}していきましょう。喜びと希望をもって、主の平和のうちに歩んでいきましょう。

アーメン。